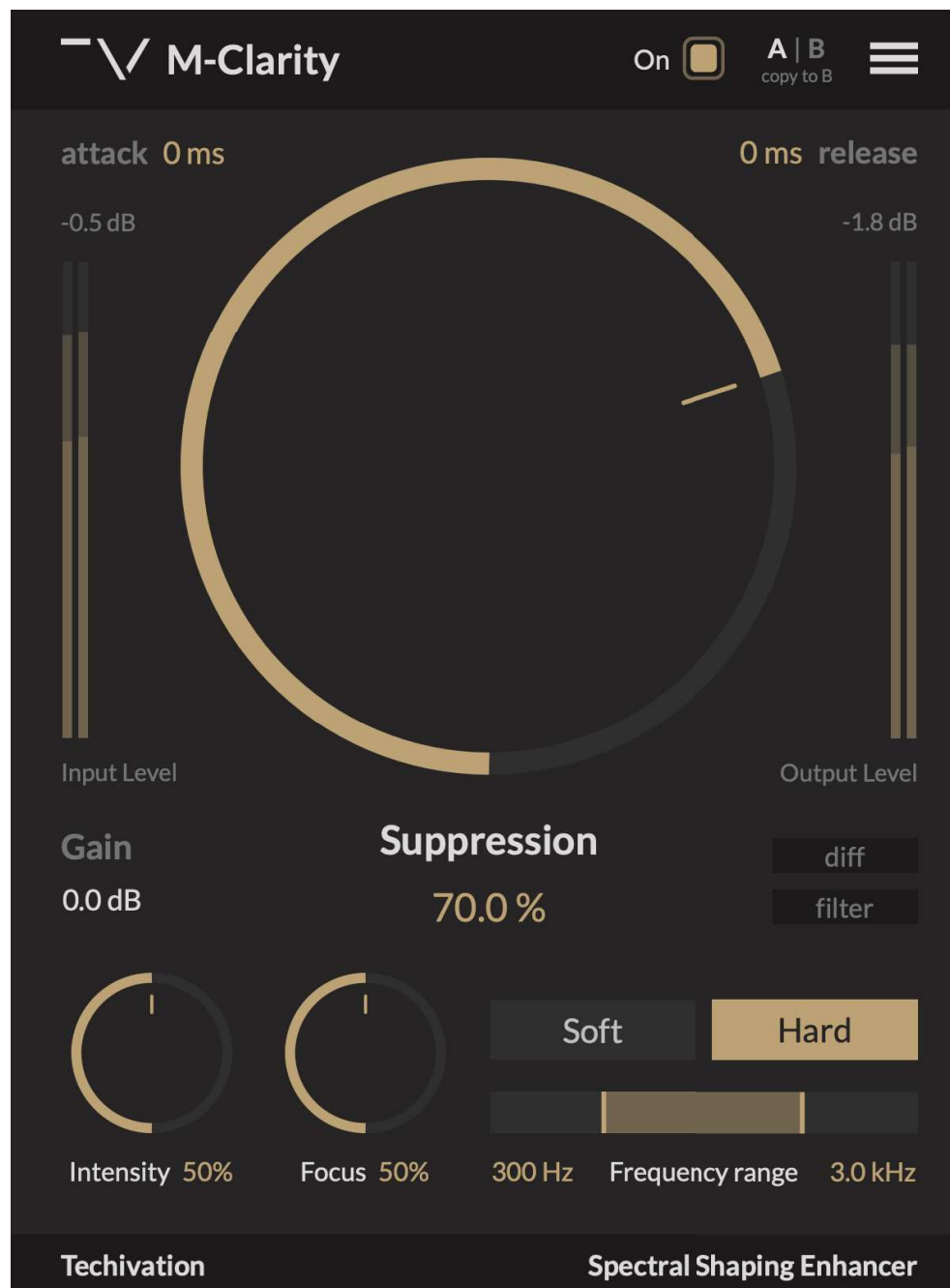


# Techivation M-Clarity

## ユーザーマニュアル



# Techivation M-Clarity

## 概要

Techivation M-Clarityは、Techivation M シリーズのプラグイン第2弾です。スペクトル整形技術を活用し、中低域の濁り、箱鳴り、ハーシュネスを正確に除去するダイナミックオーディオプラグインです。ユーザーフレンドリーなインターフェースにより、最小限の労力で迅速かつ容易に最適な結果を得ることができます。

M-Clarityは、望ましくない音を効果的かつ迅速に最小限に抑え、オーディオの明瞭度で、より快適なオーディオ体験を実現します。

ルームレゾナンスを抑えたクリーンなキックドラム、ミックスのバランスの良いベースクリアでソリッドなボーカルトラックを目指しているならば M-Clarity は完璧なソリューションです。その卓越した精度は オーディオミキシングやオーディオ編集だけでなく、オーディオマスタリングにも最適なツールとなっています。

# Techivation M-Clarity

## Features(機能)

- Suppression
- Intensity
- Focus
- Hard Mode
- Soft Mode
- Attack
- Release
- Frequency Slider
- Diff
- Filter
- Input-Output Level Meters
- Gain Control
- Internal On-Off Switch
- A/B Switch
- Undo-Redo Options
- Scaleable Graphic User Interface (GUI)
- Internal Menu
- Show/Hide Tooltips
- Stereo and Mono
- Presets

# クイック ユーザー ガイド

**Suppression:** 対象となる周波数成分をどの程度低減するかを調整し、オーディオ信号の全体的なトーンバランスと明瞭度を向上させます。

**Intensity:** プラグインがターゲットとするレゾナンスの幅を制御します 低強度では全体の輪郭に影響を与えずに細かいスペクトルのピークを抑制し、高強度ではより大きく広帯域な共鳴を探します。

**Focus:** プラグインの選択性をコントロールします： 高い設定では、最も強いレゾナンスにのみ影響を与えます。

**Hard & Soft モード:** アグレッシブでより正確な処理モードと、穏やかで滑らかな処理モードのいずれかを、特定のオーディオニーズやサウンドに求められる結果に応じて選択できます。

**Attack & Release:** 信号の周波数が変化したときにプラグインがどれだけ早く反応するか、変化が収まったときに処理を停止するまでの時間を決定します。

**Frequency Slider:** このスライダーで、望ましくない問題を含む周波数帯を検索して選択すると、プラグインがその問題を改善します。

**Diff & Filter:** 原音と処理後の音声信号の違いを聞き分け、周波数調整の微調整をしやすくするためのボタンです。

# Techivation M-Clarity

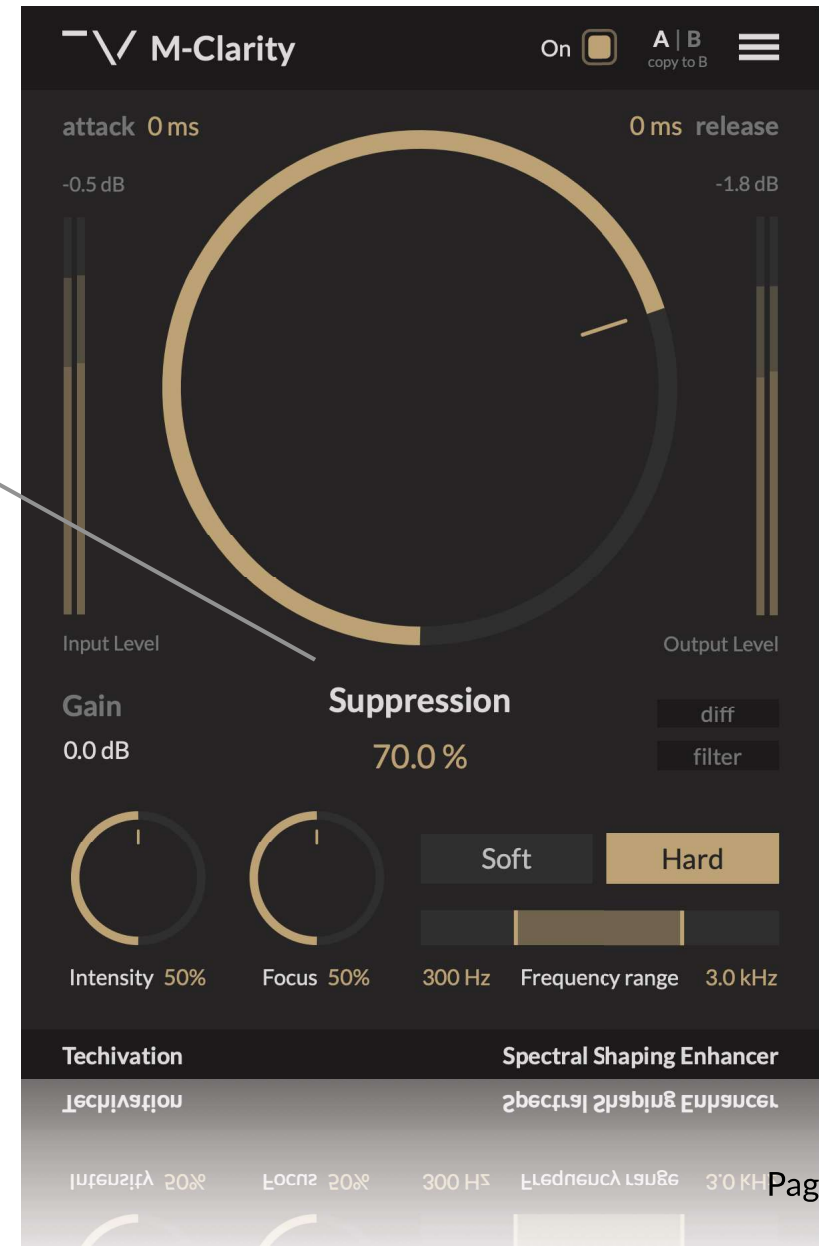
Features

## Suppression

「Suppression」はオーディオ信号内の特定の周波数成分を低減する量を制御します。

これは、音のハーシュネス、濁り、箱鳴りなどの望ましくない特性を最小化するために行われます。

特定の周波数帯域に選択的な抑制を適用することで、M-Clarityはオーディオトラック全体のトーンバランスと透明感を高めることができます。



# Techivation M-Clarity

Features

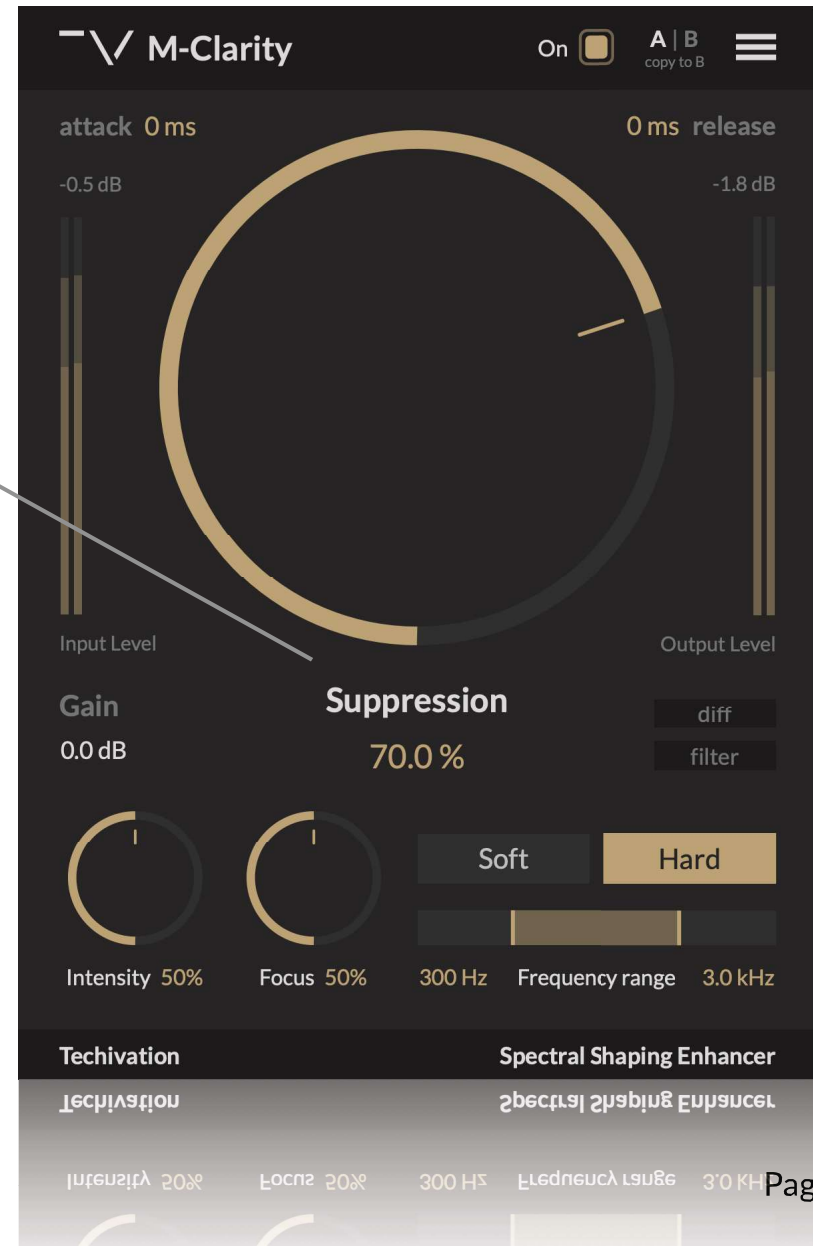
## Suppression

### クイックヒント

ノブをダブルクリックすると、デフォルトの値に戻ります。(50%)

すべてのパラメータをクリックし、マウスのホイールを使って変更することができます。

数値をダブルクリックすると、0から100までの値を入力することができます。

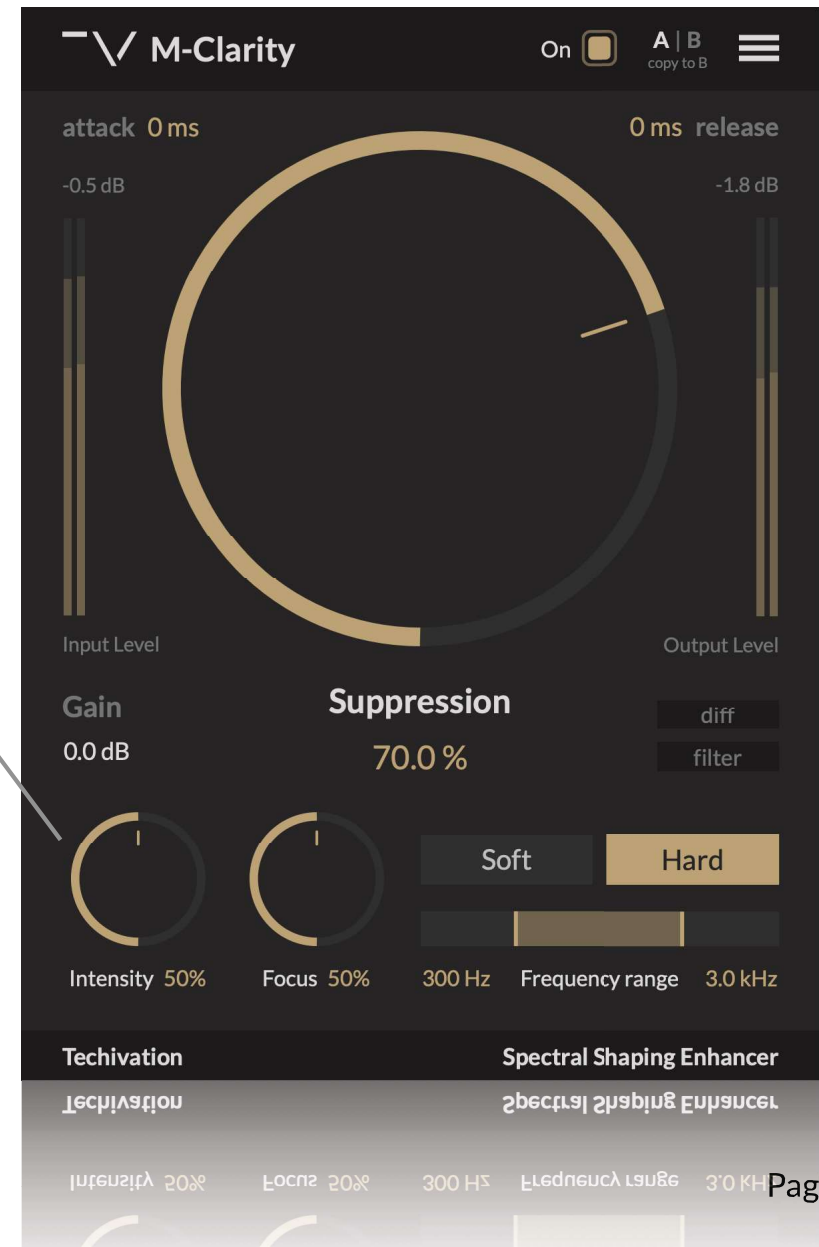


# Techivation M-Clarity

Features

## Intensity

これは、周波数から見た共振の規模に関連しています。プラグインが小さな狭い周波数の共振を「探す」ことも、より広い帯域の共振を「探す」こともできます。その結果、プラグインが抑制するものを制御します。





# Techivation M-Clarity

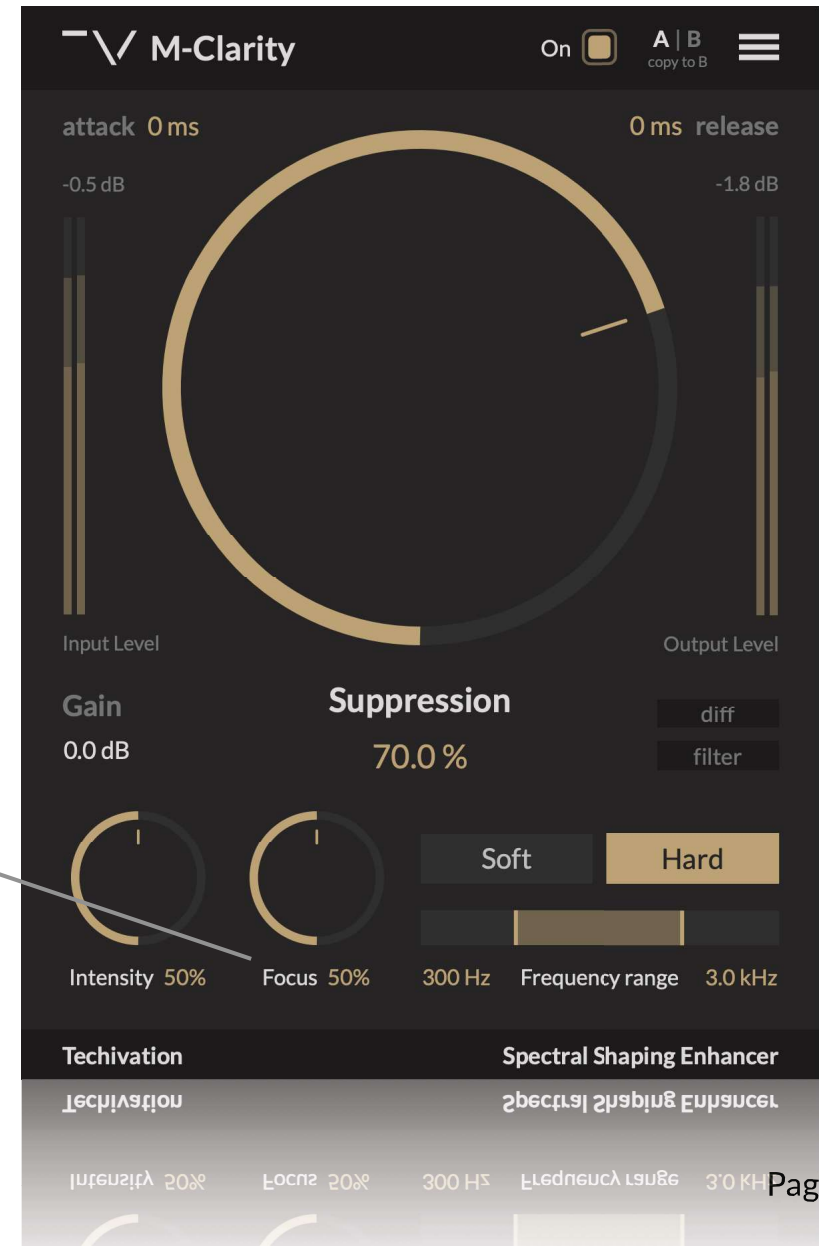
Features

## Focus

プラグインがどの程度選択的であるかを制御します。高い設定では、最も強い（大きな）レゾナンスを中心に処理し、弱いレゾナンスにはあまり影響を与えません。低い設定では、すべてのレゾナンス・ピークが等しく処理されます。

これにより、信号をより選択的にするか、より選択的にしないかを選択することができます。

究極的には、プラグインで「Focus」を調整することで、オーディオトラックの全体的な品質や特性に大きな影響を与えることができるため、プラグインの中で重要なコントロールとなります。



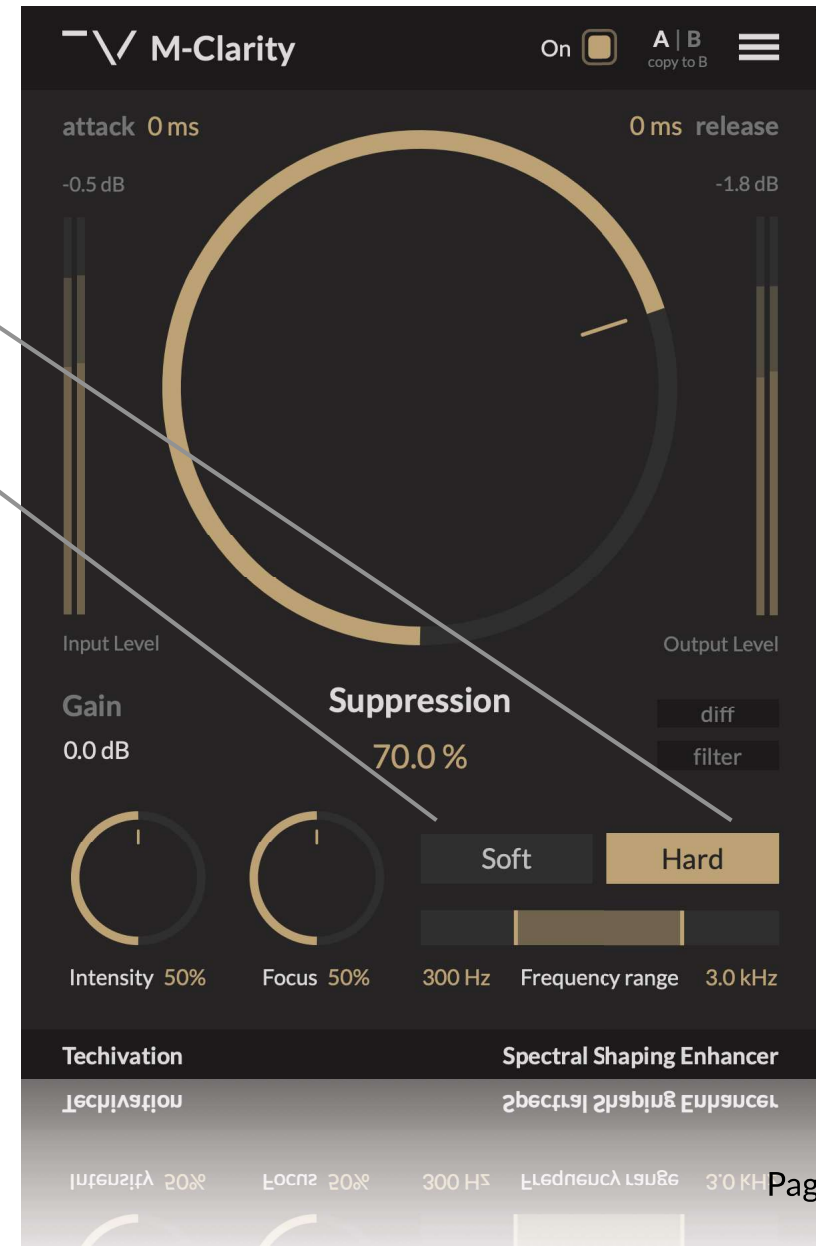
# Techivation M-Clarity

Features

## Hard & Soft Modes

M-Clarityのこれらのモードは、プラグインが特定の周波数成分をどの程度積極的に操作または抑制して、望ましいオーディオ特性を達成するかを決定します。

「Hard」モードでは、プラグインはスペクトルを平滑化することなく、検出した共振を正確に除去します。「Soft」モードでは、スペクトルの平滑化が行われるため、より穏やかな処理となりますが、正確さは失われます。



# Techivation M-Clarity

Features

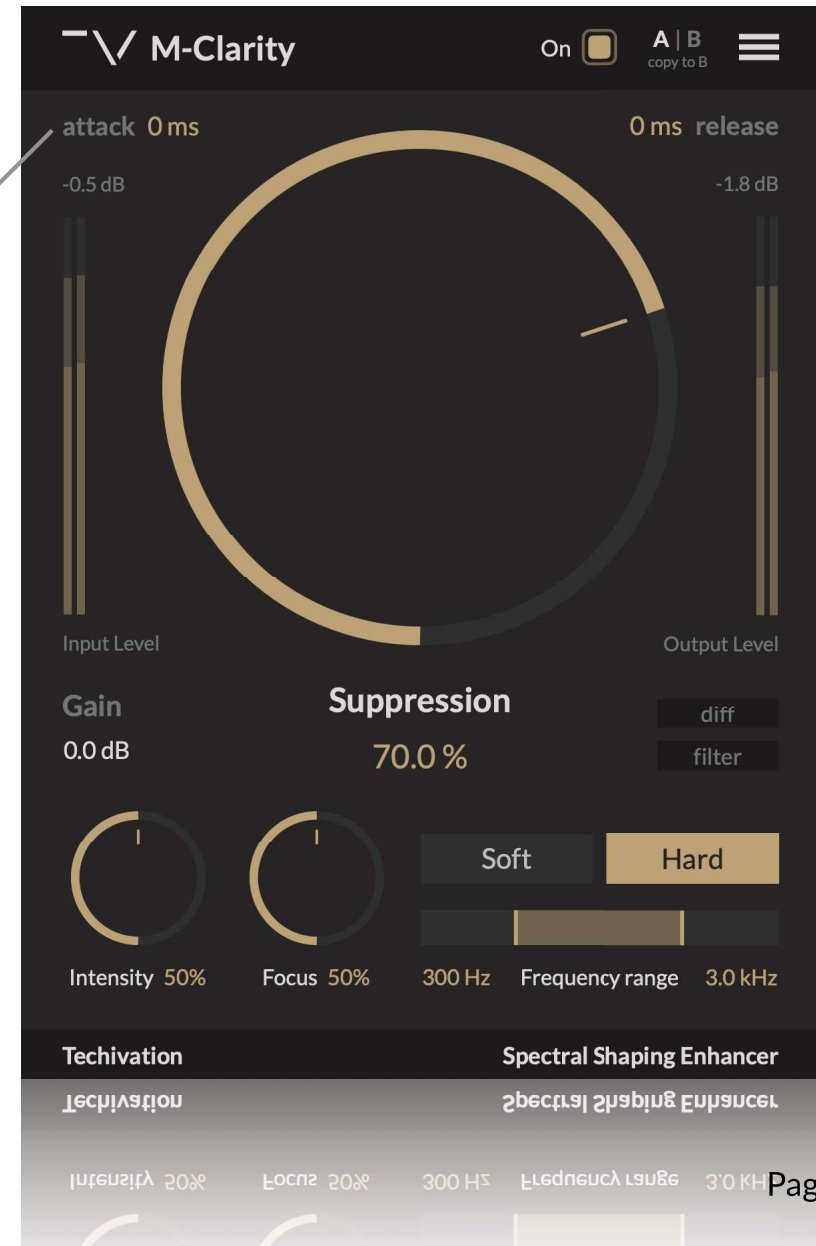
## Attack Control

これらのパラメータは、オーディオ信号のダイナミック処理に関連するものです。一般的なダイナミックプロセッサとは異なり、M-Clarityではアタックとリリースの両方を0msに設定しても歪まないのです、より正確でアグレッシブな処理を行うことができます。

「attack」は 一定の周波数成分があるスレッシュドを超えると、スペクトル整形プロセッサが反応し、抑制や操作を開始するまでの時間を指します。アタックタイムを短くすると、問題のある周波数がより速く抑制され、長くすると、よりスムーズでアグレッシブでないレスポンスになります。

クイックヒント：

M-Clarityがトランジェントに影響を与えないようにしたい場合は、アタックタイムを長くしてください。



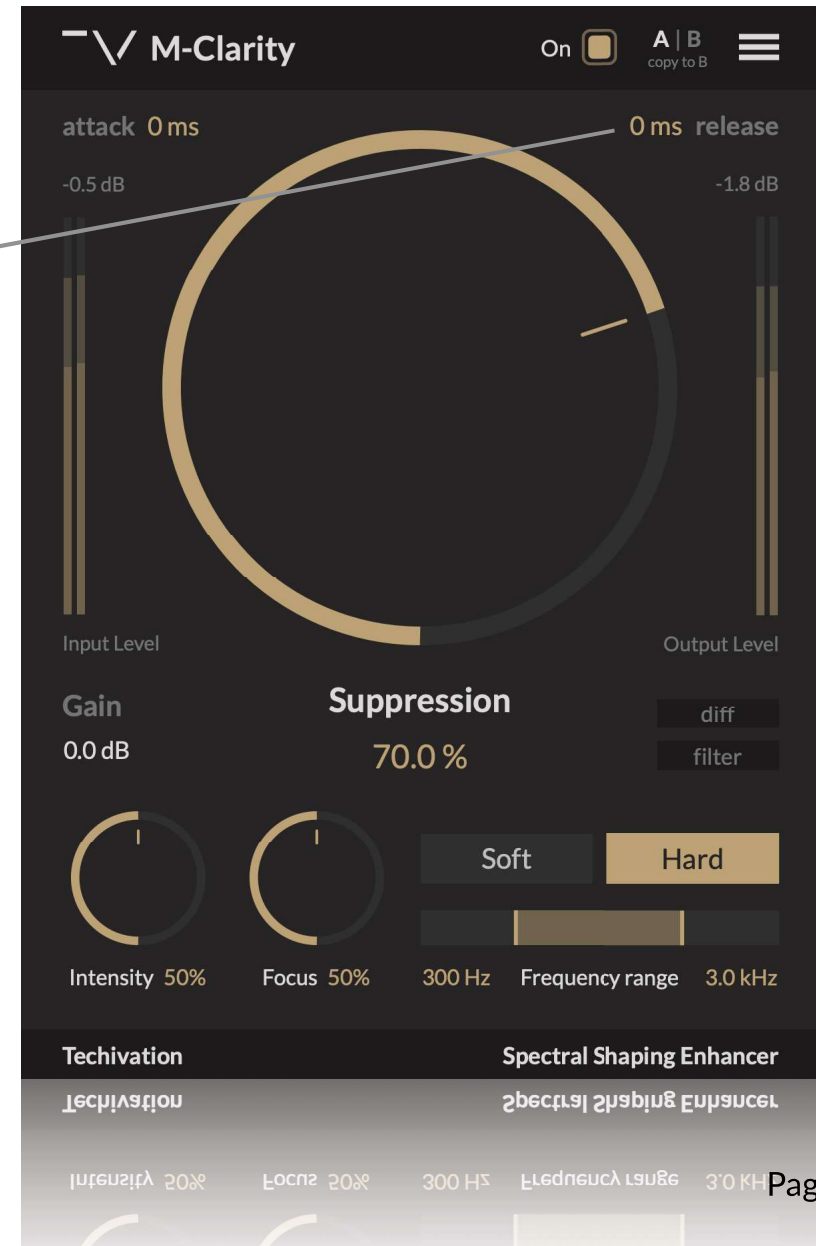
# Techivation M-Clarity

Features

## Release Control

「release」とは、スペクトル整形プロセッサが周波数成分がスレッシュホールドを下回ってから、抑制または操作を停止するまでの時間を指します。リリースタイムを短くすると、より早く処理が停止し、リリースタイムを長くすると、より緩やかに効果が減少するため、よりスムーズなトランジションが可能になります。

M-Clarityのattackとreleaseのパラメータを調整することで、処理の動的応答を微調整し、プラグイン全体のサウンドと動作をよりコントロールすることができます。



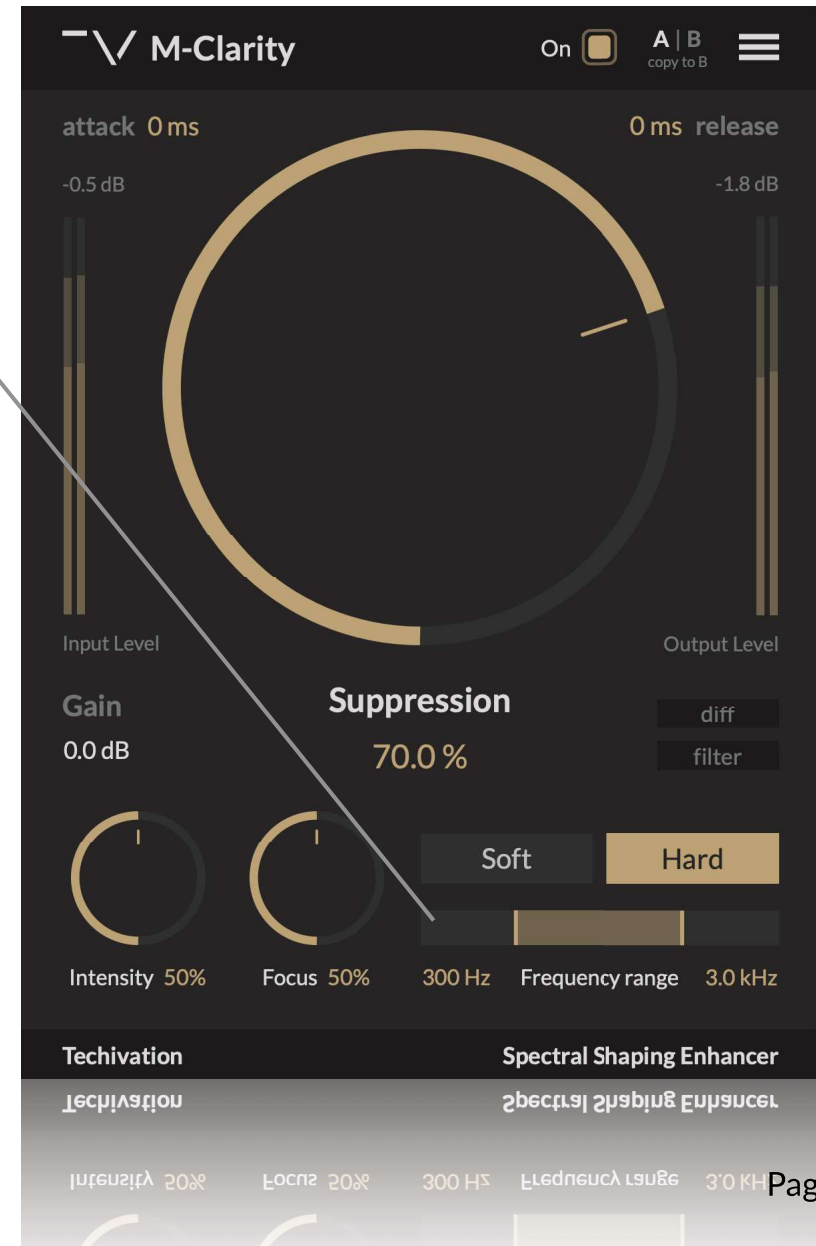
# Techivation M-Clarity

Features

## Frequency Slider Part 1

M-Clarityでは 望ましくない問題を含む周波数帯域を特定することが重要なステップとなります。そこで便利なのが、周波数選択スライダーです。周波数選択スライダーは、プラグインがターゲットとして操作する特定の周波数帯域を分離して選択することができます。

例えば、中低域の濁りや箱鳴りが多いレコーディングの場合、周波数選択スライダーを使ってその周波数帯域をターゲットにすることができます。周波数帯域を選択すると、プラグインはスペクトル整形処理を適用して問題のある周波数成分を抑制または操作し、よりクリーンでバランスのとれたオーディオ・トラックを実現します。



# Techivation M-Clarity

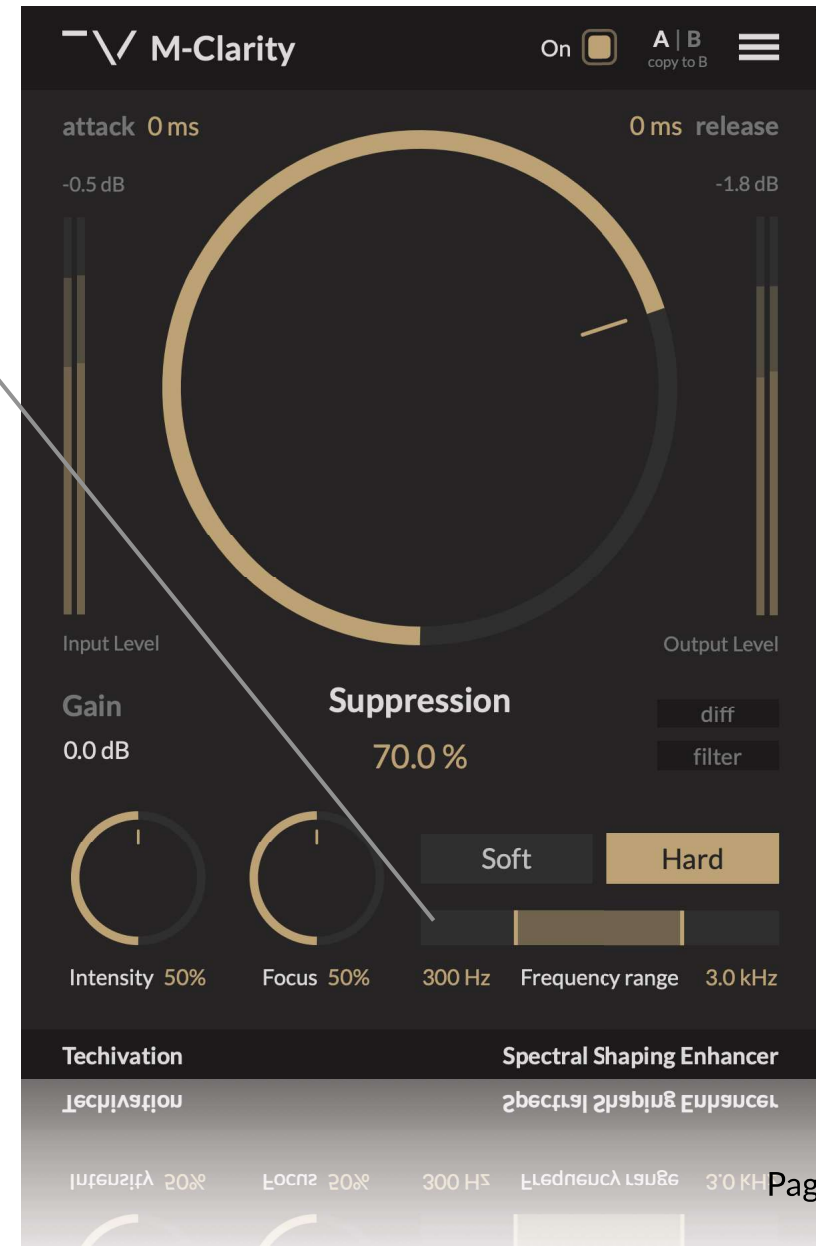
Features

## Frequency Slider Part 2

同様に、高域のハーシュネスやシビランスが多いレコーディングに取り組んでいる場合、周波数選択スライダーでその周波数帯域をターゲットにすることができます。このプラグインは スペクトル整形処理を適用して これらの不要な特性の原因となる問題のある周波数成分を抑制または操作し よりクリアで滑らかなサウンドに仕上げます。

周波数選択スライダーは、スペクトル整形処理を正確にコントロールすることができ、特定の周波数帯域の調整を微調整して、望ましいオーディオ結果を得ることができます。

特定の周波数帯域を分離してターゲットにすることで、音色の問題に効果的に対処し、オーディオトラック全体の品質と特性を向上させることができます。



# Techivation M-Clarity

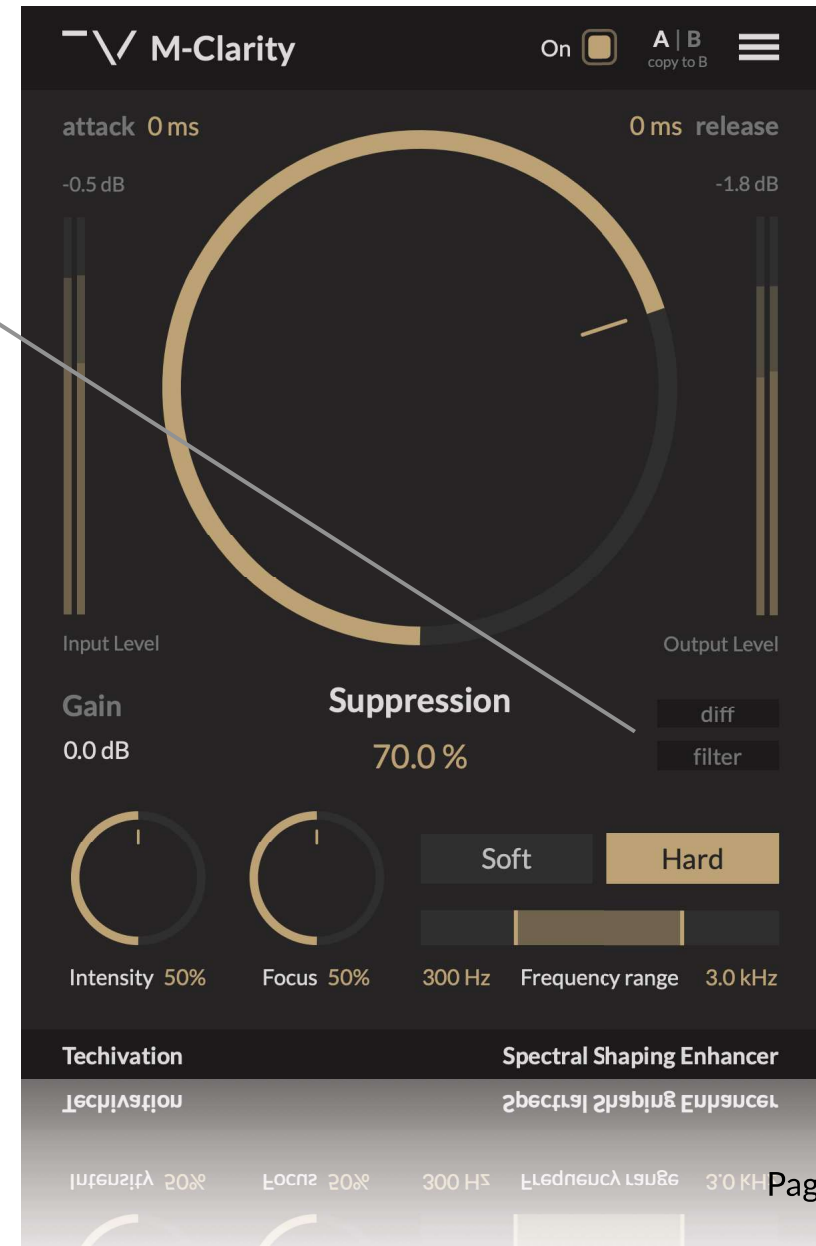
Features

## Diff & Filter

M-Clarityの「Diff」ボタンはデルタリスニングのことで、元のオーディオ信号と処理後のオーディオ信号の差を聴くことができる機能です。

「Filter」は、Frequency range スライダーで選択した周波数帯域だけを聴くことができます。

「Diff」は、オーディオ信号に対する処理の影響を理解するのに役立ち、音の他の要素に悪影響を与えることなく、行われる調整が、ハーシュネス濁り、音のこもりなど、対象となる問題への対処に対して効果的になるようにします。





# Techivation M-Clarity

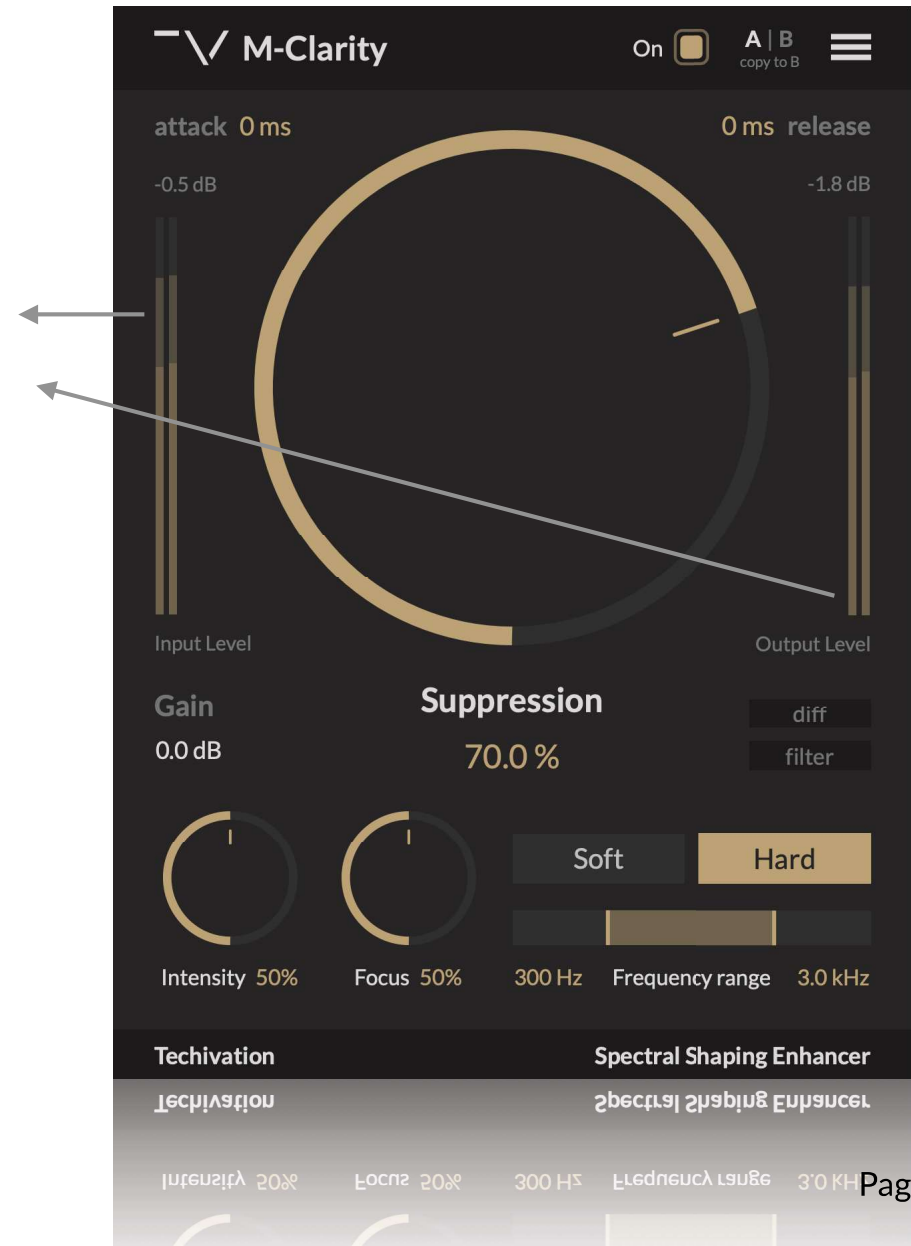
Features

## Input-Output Level Meters

入出力レベルメーターは、処理前と処理後の入出力信号のオーディオレベルを表示するビジュアルディスプレイです。このメーターは、入出力レベルをリアルタイムにフィードバックし、スペクトル整形処理中に発生する振幅の変化を監視することができます。

M-Clarityで入出力レベルメーターを確認することで、処理設定が入力信号に対して適切かどうか、出力レベルが望ましい目標レベルに合致しているかどうかを確認することができます。

処理中の入出力レベルをモニターすることで、処理設定の調整やスペクトル整形処理の微調整を行い、最適な結果を得ることができます。





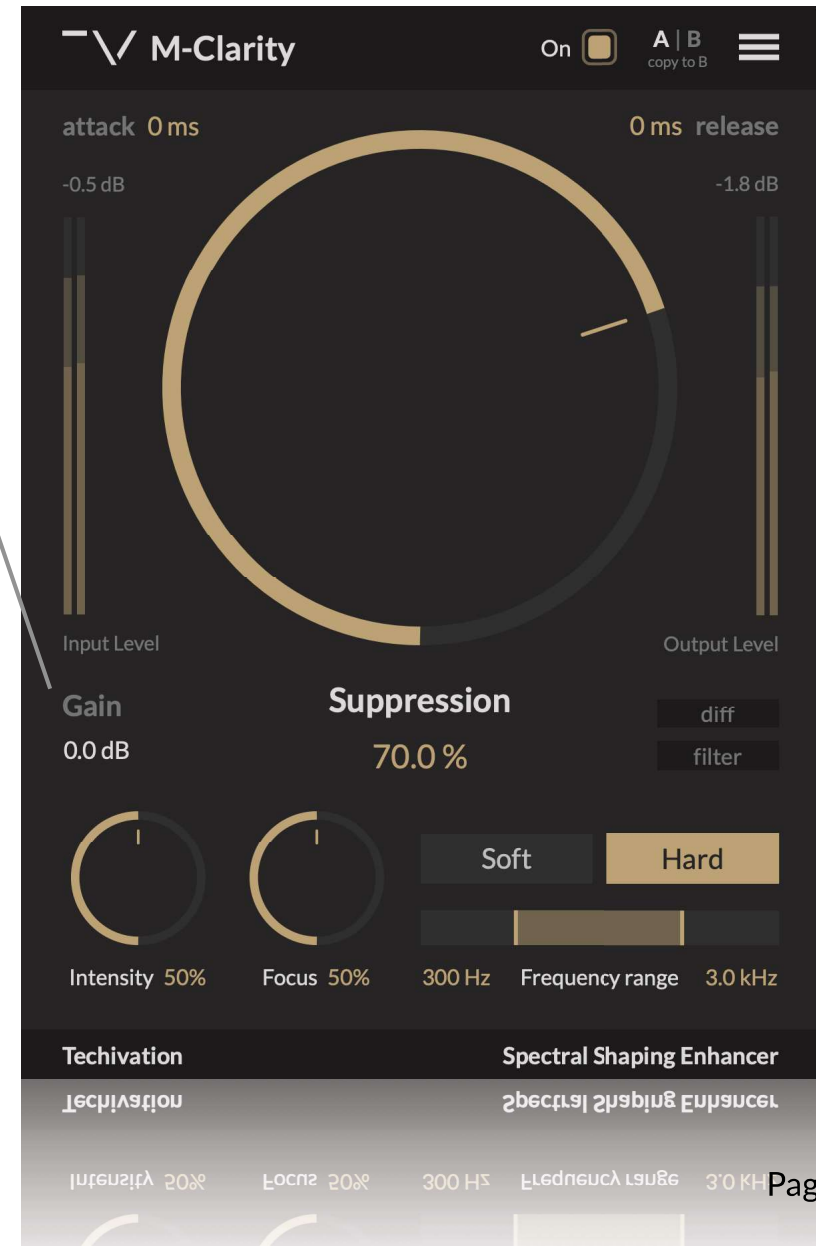
# Techivation M-Clarity

Features

## Gain Control Part 1

M-Clarityでは、「Gain」コントロールは、処理されたオーディオ信号の出力音量を調整する役割を担っています。スペクトラル整形はオーディオ信号内の個々の周波数成分をターゲットにして操作する周波数固有の処理技術であるため、入力信号レベルは処理に直接影響を与えません。そのため、プラグインに入力コントロールは必要ありません。

しかし、M-Clarityの「Gain」コントロールは、プラグインの効果をサウンドに適用した後、正確なゲイン補正を行うのに便利です。



# Techivation M-Clarity

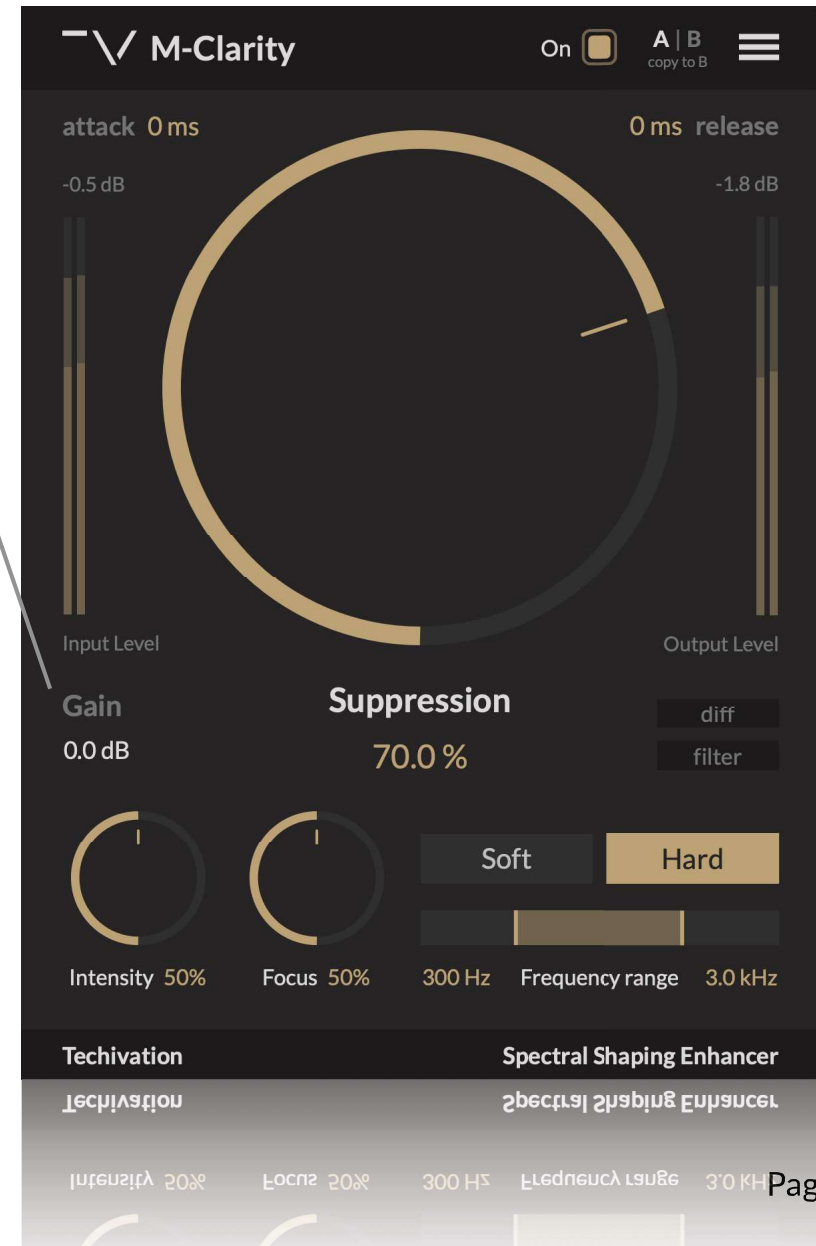
Features

## Gain Control Part 2

スペクトル整形処理をオーディオ信号に適用すると、全体の音量や振幅が変化することがあります。「Gain」コントロールを使用することで、処理されたオーディオ信号の出力レベルを目的のターゲットレベルに合わせることができ、スペクトル整形効果が正確かつ一貫して適用されるようにします。

M-Clarityの「Gain」コントロールは、出力音量の微調整が可能で、処理されたオーディオ信号をミックス内の他のオーディオトラックと合わせる必要がある場合や、特定の出力フォーマットに対して特定の音量調整が必要な場合に特に有効です。

「Gain」コントロールで出力音量をコントロールすることで、希望するオーディオ要件を満たす、バランスのとれた一貫したオーディオ出力を実現することができます。



# Techivation M-Clarity

[Features](#)

## Presets

本プラグインでは、既存のプリセットを読み込むだけでなく、右上のメニューを使用して独自のプリセットを作成・保存することができます。

この機能により、特定のミキシングニーズに合わせた様々な設定に素早くアクセスして適用することができ、ワークフローを合理化し、オーディオ処理タスクに一貫した出発点を提供します。

また、カスタムプリセットを保存しておけば、異なるプロジェクトでも好みの設定を簡単に呼び出すことができ、オーディオ制作の一貫した効率的なアプローチを保証します。

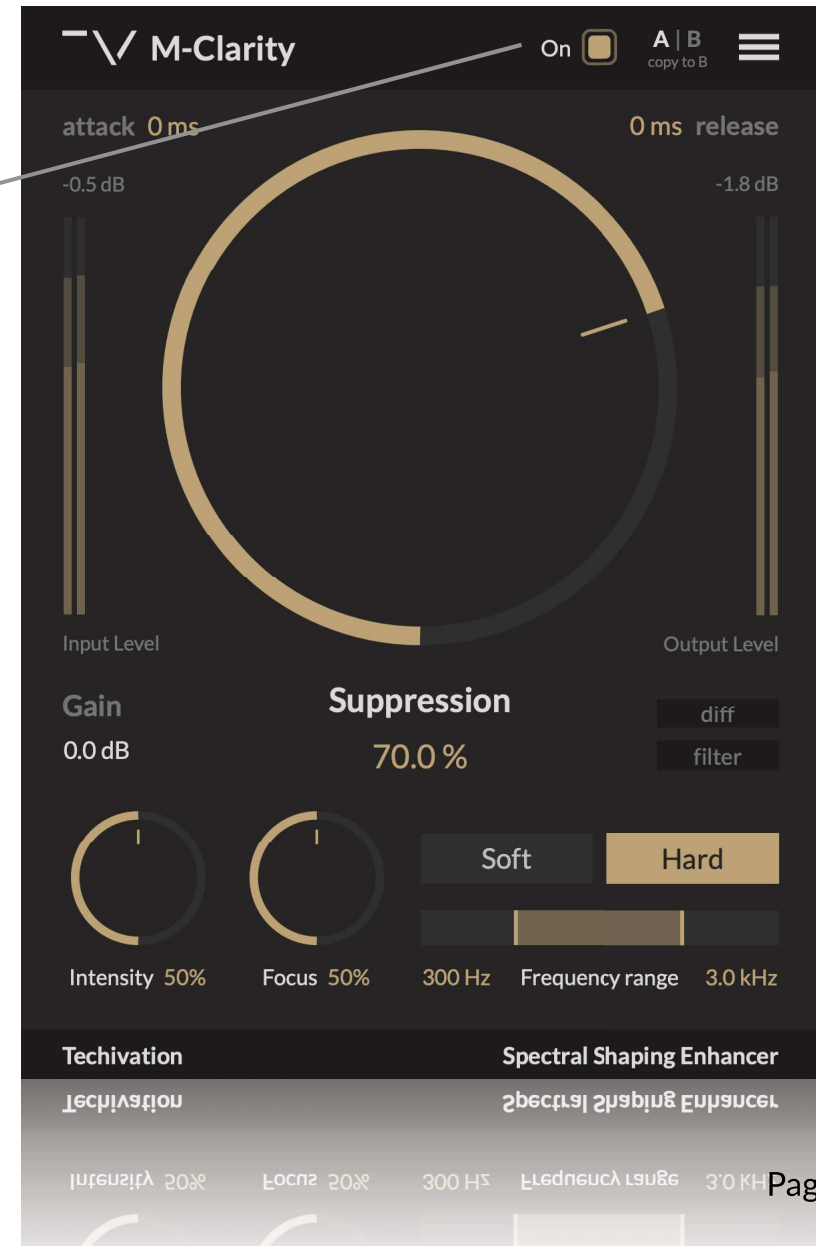
# Techivation M-Clarity

Features

## Internal On-Off Switch

このプラグインは、専用のバイパス/オンコントロールを備えており、エフェクトの有効化またはバイパス化を迅速に行うことができます。このユーザーフレンドリーなコントロールは、DAWホスト内で直接エフェクトのオン/オフを切り替える際に発生する可能性のあるクリックやオーディオアーティファクトを回避するために設計されています。このバイパス/オンコントロールを利用することで、プラグインのエフェクトを使用した場合と使用しない場合のオーディオをシームレスに試聴することができ、よりスムーズなリスニング体験とミキシングプロセスにおけるより正確な調整を保証します。

バイパス/オンコントロールは、その主な機能に加えて、DAW内のオートメーションプロセスで作業する際にも特に役立ちます。バイパス/オンコントロールを自動化することで、ミックスの特定のポイントでプラグインエフェクトを有効/無効にすることができ、オーディオ処理にダイナミックで創造的な変化を与えることができます。

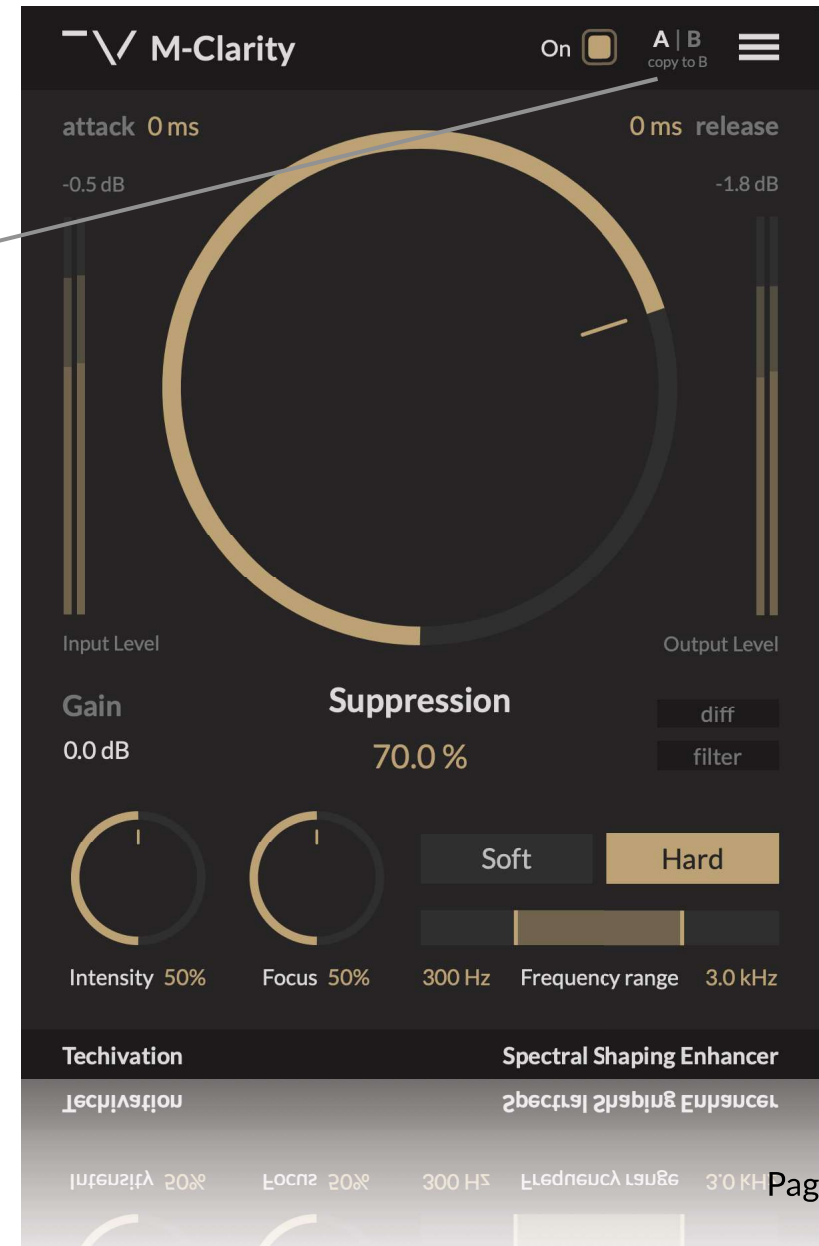


# Techivation M-Clarity

Features

## A | B 比較

A/Bボタンは、異なるオプションを比較し、オーディオ処理のニーズに最適な設定を見つけるための便利な方法です。クリックするだけで、同じプロセッシングチェーンの2つの異なるバージョンを簡単に切り替え、結果を比較することができます。さらに、「Copy A to B」と「Copy B to A」機能では、あるバージョンから別のバージョンに設定をコピーしてその効果を比較することで、小さな微調整や調整を素早くテストすることができます。A/Bボタンと「Copy」機能を併用することで処理の微妙な変化を効率的に評価し、最適なアプローチを決定することができます。この合理的なワークフローは、時間と労力を節約し、技術的な細部に煩わされることなく、ミックスの創造的な側面に集中することができます。



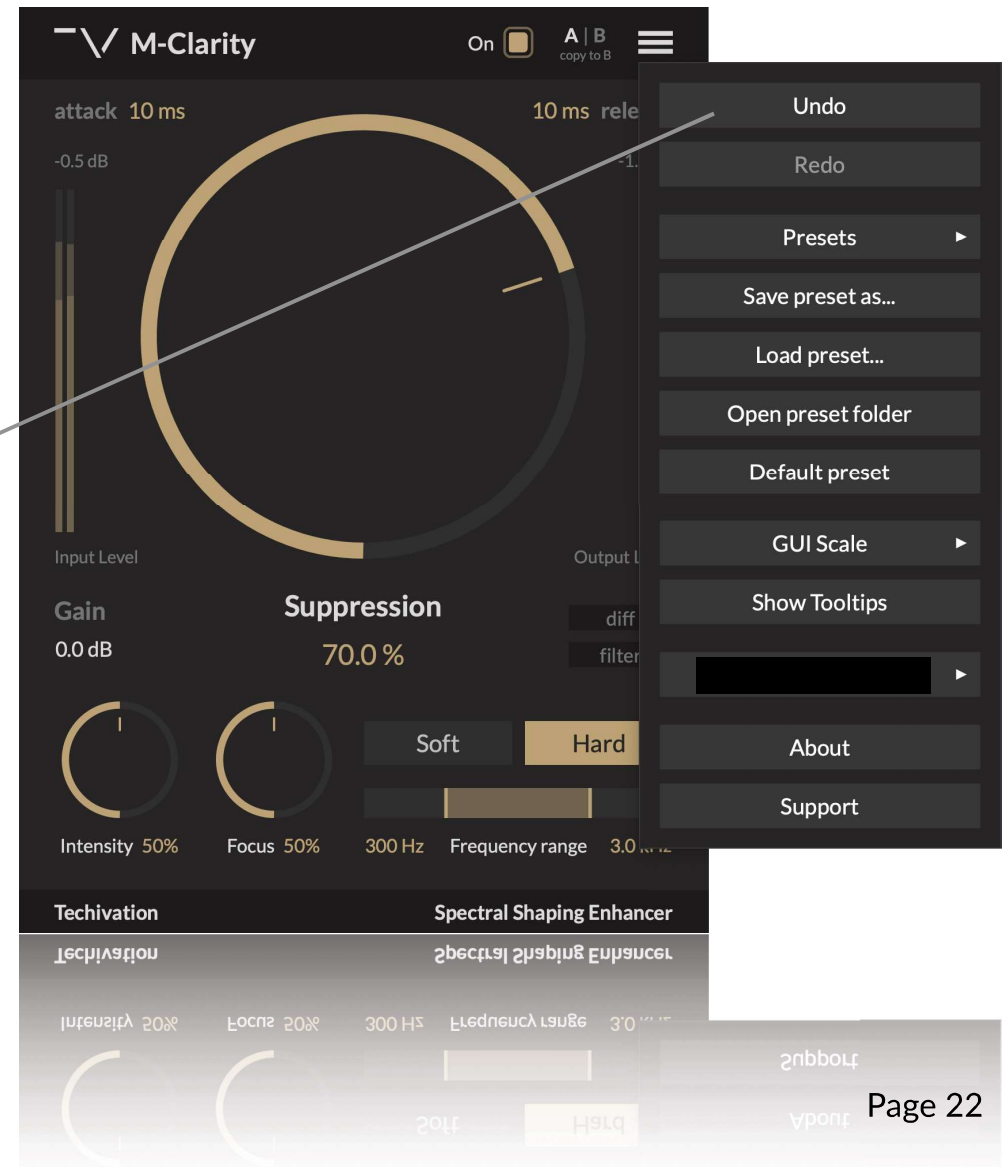
# Techivation M-Clarity

Features

## Undo/Redo

M-Clarityは、「Undo」「Redo」というオーディオ処理の際に安心できる便利な機能を内蔵しています。これらの機能により、以前の設定に戻したり、誤って変更した箇所をやり直したりすることができ、時間の節約や貴重な調整内容を失う可能性があるというストレスを解消することができます。

「Undo」と「Redo」オプションにより、オーディオを永久に変更する心配がなく、さまざまな設定や構成を試すことができます。さらに、この機能は、バックトラックや別の処理経路を探索する効率的な方法を提供し、オーディオ制作においてより多くの情報に基づいた決定を行うことができるため、ワークフローを強化します。

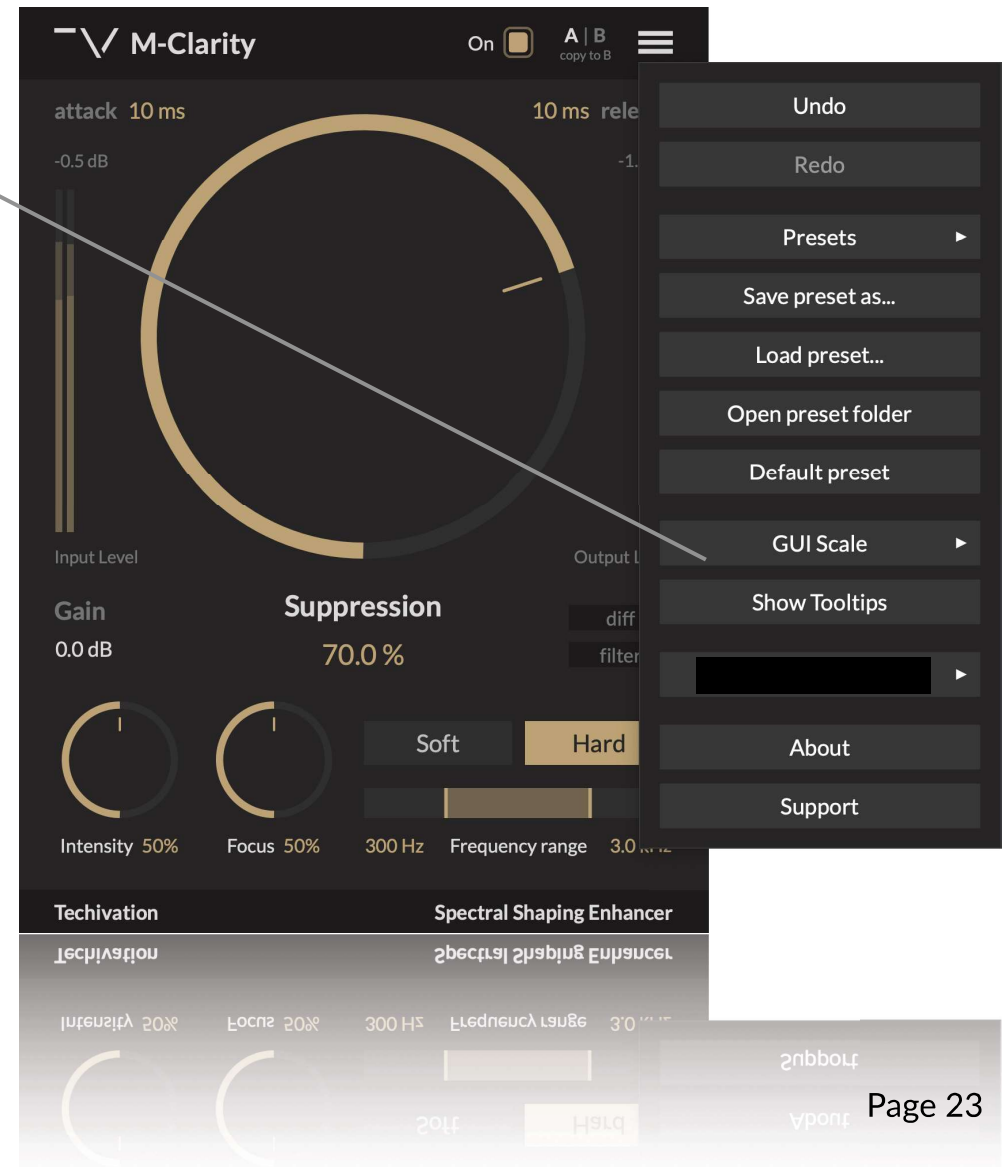


# Techivation M-Clarity

Features

## GUI Scale

M-Clarityのインターフェイスのスケール機能は、好みに合わせてGUIのサイズをカスタマイズし、ワークフローを最適化することが可能です。80%から150%まで、さまざまなスケールオプションが用意されているので、自分のビジュアルや作業スタイルに合わせてインターフェイスをパーソナライズすることが可能です。この機能の優れた点の一つは、選択したスケールに関わらず、プラグインのビジュアル品質が一貫して保たれることです。このため、好みの表示サイズに合わせて拡大・縮小しても、インターフェイスはクリアで読みやすいままです。さらに、M-Clarityのインターフェイスの拡大縮小機能は、Retinaディスプレイを含むハイエンド品質のモニター用に最適化されており、プラグインが様々なデバイスで美しく、確実に動作することを保証しています。





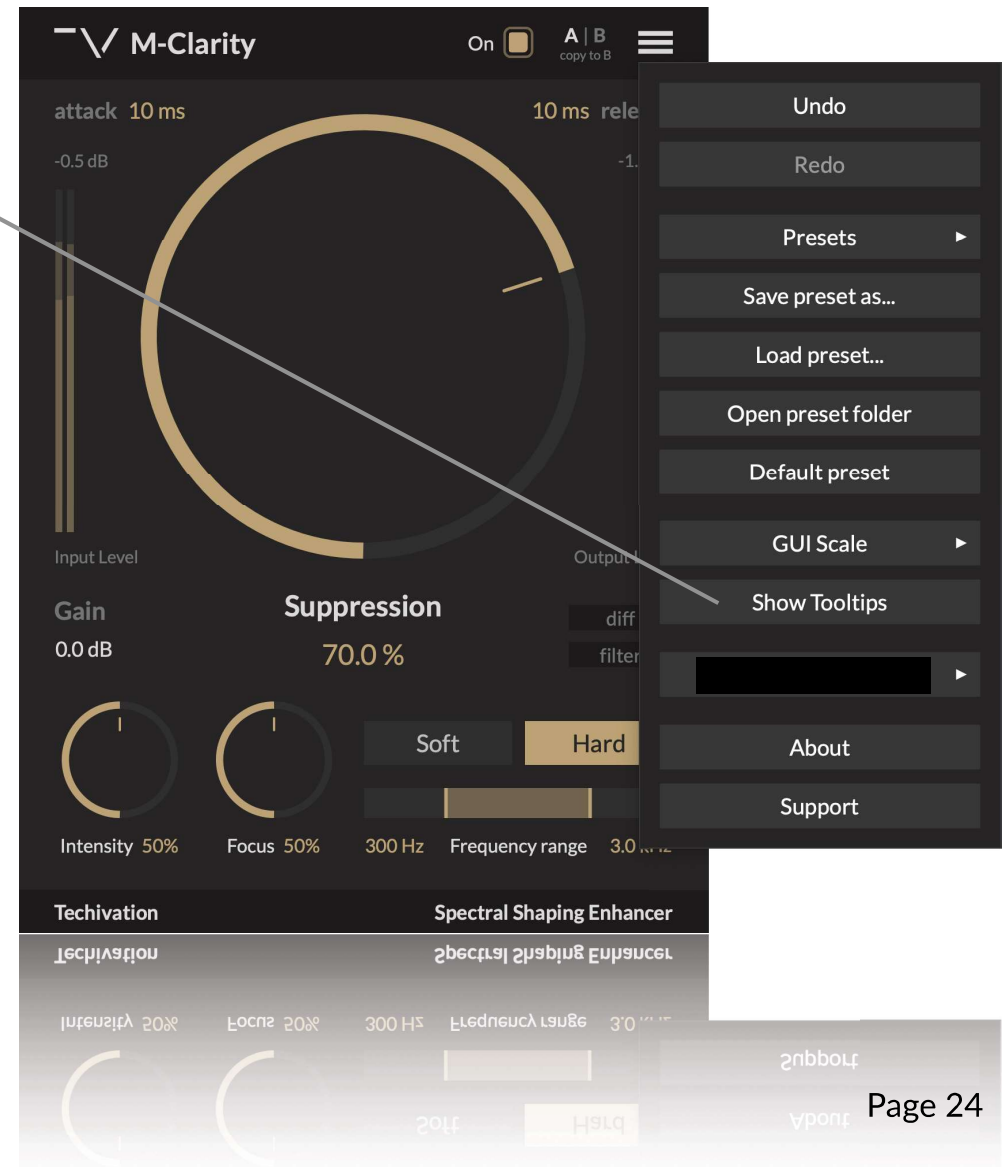
# Techivation M-Clarity

Features

## Tooltips

M-Clarityには、便利な「ツールチップ」オプションがあり、プラグインのメニューから有効/無効を選択することができます。このオプションを有効にすると、マウスを特定のセクションに合わせるだけで、ユーザーインターフェースの各セクションの簡単な説明を見ることができます。ツールチップは、プラグインのさまざまなコントロールや設定についてすばやく知ることができる優れた方法で、インターフェイスを効果的に操作して使用することを容易にします。

ツールチップは、各パラメータの機能、範囲、オーディオ信号への影響など、役立つ情報を提供します。ツールチップオプションを有効にするとワークフローが加速化し、M-Clarityプラグインでの作業がより簡単になります。特定のコントロールが何をするのかわからない場合、マウスをその上に置くだけで、素早く有益なツールチップを表示します。





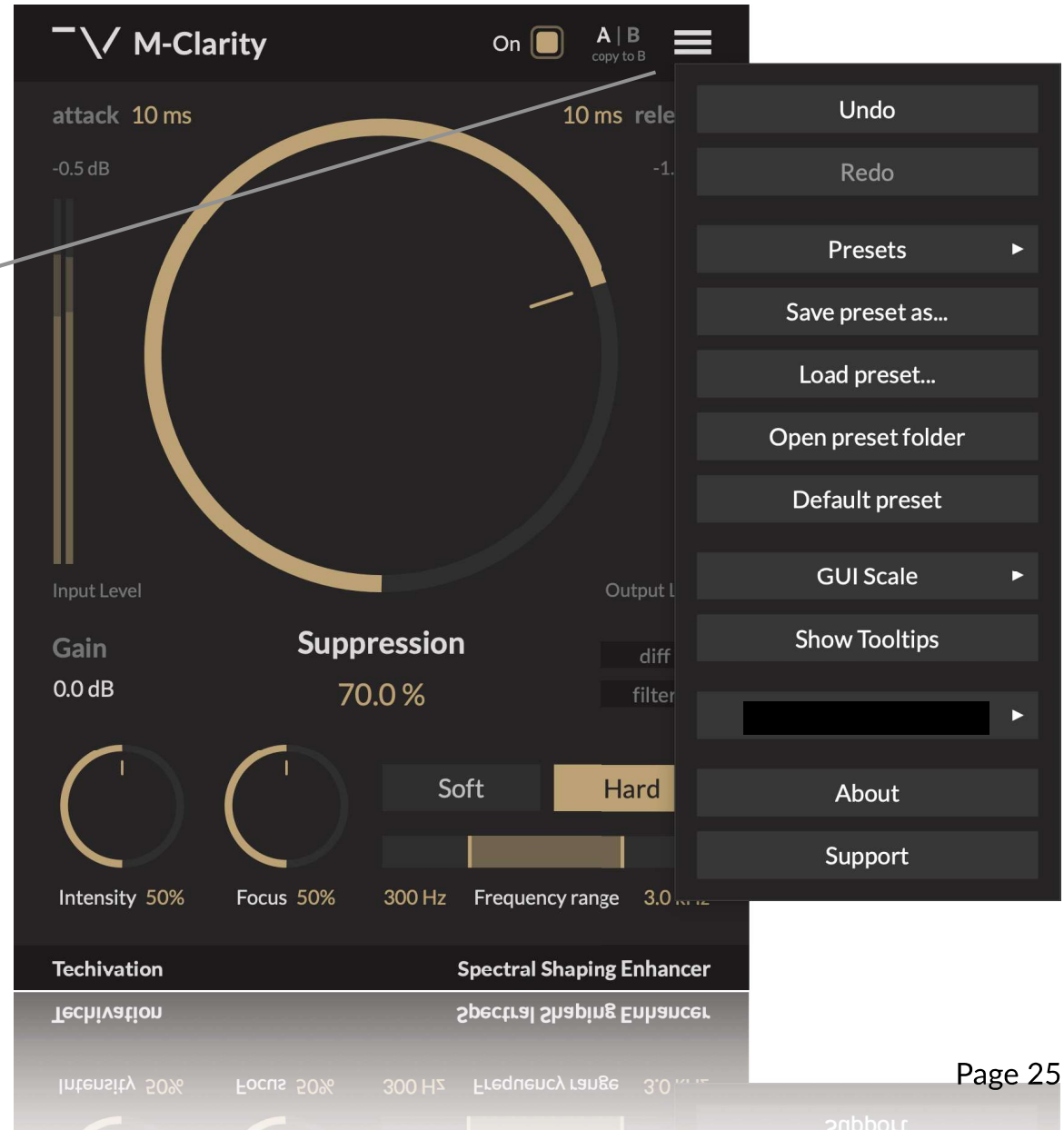
# Techivation M-Clarity

Features

## プラグインメニュー

便利な機能のクイックメニューです:

- Undo
- Redo
- Presets
- Save Preset As...
- Load Preset...
- Default Preset
- Open preset folder
- GUI Scale
- Show/Hide Tooltips
- [Your email]/Sign in
- About
- Support







# Techivation M-Clarity

## 互換性

プラグインフォーマット: VST, VST3, AU, AAX.

対応プラットフォーム: Mac OS X 10.12 (macOS Sierra) 以降、  
あるいはIntel & Native M1/2  
Windows 7 以降, 64 bits

対応 DAW: Ableton Live, Logic Pro, Avid Protools, FL Studio, Cubase, Nuendo, Reaper, その他市販されている主要な DAW ソフトウェア

## アクティベーション

M-Clarityは、弊社のウェブサイトからライセンスを購入し、弊社の規約に従ってアクティベートする必要があります。弊社からライセンスを購入すると、プラグインにサインインした後、自動的にTechivationのアカウントでプラグインを有効化します。1つのライセンスを購入された方は、同時に最大2台のマシンでプラグインを使用することができます。

## サポート

サポートに関するお問い合わせは、[techivation.com/support](https://techivation.com/support) をご覧ください。

権利の詳細については、[techivation.com/terms-conditions](https://techivation.com/terms-conditions) をご確認ください。

ご不明な点がございましたら、お気軽にメールにてご連絡ください。[info@techivation.com](mailto:info@techivation.com) または [techivation@gmail.com](mailto:techivation@gmail.com)

## インストール

M-Clarityのライセンスを購入すると、プラグインにサインインしてアクティベーションを行い、生涯にわたって使用することができます。

ソフトウェアのダウンロードはサインアップ/購入時に提供されますが、[techivation.com](https://techivation.com) で常に最新のソフトウェアアップデートを確認することができます。

ダウンロード後、ファイルを解凍し、お使いのシステムに応じてMacまたはPCのインストーラを選択してください。注意：PC用ファイルをMacで実行したり、その逆はしないでください。

Macの場合 PKGインストーラーをダブルクリックし、指示に従います。

PC/Windows: ファイルの内容を解凍します。セットアップファイルをダブルクリックし、指示に従ってください。

# Techivation M-Clarity

## アンインストール先

### MAC OS

AU: /Library/Audio/Plug-ins/Components/

VST: /Library/Audio/Plug-ins/VST/

VST3: /Library/Audio/Plug-ins/VST3/

AAX: /Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins/

Other data: ~/Library/Application Support/Techivation

### WINDOWS

VST: Custom path from installer

VST3: \Program Files\Common Files\VST3\

or \Program files(x86)\Common Files\VST3

AAX: \Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins\

Other data: C:\ProgramData\Techivation 「注意:このフォルダは隠されているので隠しファイルを表示するためにまず設定を変更する必要があります。」